



発行所  
燎原社

〒606 京都市左京区  
東竹屋町・川端東入る  
部落問題研究所内  
電話 京都761-2141番  
振替口座京都 6-15762番

発行人  
木村 京太郎  
1部 200円(税込)  
年 2,000円(税込)

## 秋季総会(懇談会)開催

本会の第二〇回研究例会を秋季総会として  
左記のとおり開きます。

一、とき 十月十七日(土)午後一時から

二、ところ 東山区清水寺成就院本堂にて

三、参加費 当日の茶菓料等を含め  
一名 2,000円



山陰線の車窓

丹後由良嶽を望む

石田 昭子

今回の総会は京都の名勝清水寺成就院本堂での秋色漂う広い名園を展望しながら一年半にわたる本会の活動を振りかえり、来年四月の京都府知事選挙などの展望を語り合い、和やかな、意義のある集いにしたいと存じます。

その中で約一時間あまり、立命館大学教授で本会の世話人である塩田庄兵衛先生から、さいきんの時局の重大性についてお話しを聞き、お互いの意見を出し合って、決意を堅めたく存じています。毎月の例会に御出席のない会員、誌友の方がたもぜひ誘い合せ、多数ご出席下さいますようお願ひ申上げます。

なお準備の都合がありますので、当日ご出席の方は、ハガキ又は電話で十月十四日まで左記へ願い申上げます。

左京区東竹屋町川端東入る  
社団法人 部落問題研究所内  
京都の民主運動史を語る会

電話 七六一-一二一四一一番

なお、清水寺成就院は、京都市バス東山線「清水坂」で下車、約一キロ米ほどの坂道を東へ上り、清水寺山門前を左へ約200米程のところです。

### 第三種郵便物認可のため

第三種郵便物は一、毎月一回以上定期発行二、時事問題を掲載すること、発行部数が一回一、〇〇〇部以上で、その七〇%以上が有料であることなどの条件があります。

本誌は有料購読者がまだ五〇〇名程度で、あと三〇〇名ほど増えると、第三種郵便物認可の条件が整います。会員、誌友各位が一名につき一人の定期購読者を勧誘御推舉下さいますよう、折入つてお願い申上げます。

## 主権在金の行政改革

### ○ 行革国会始まる

『行政改革』古くて新しい言葉である。立法、司法、行政、と分けられ政治と行政などと云われて政治には比較的無関心な人でも行政と名がつくと身近な問題として考えるようになる。これは行政が暮らしや経営に直接影響しているのと行政には法令と予算の範囲内と云う物差しがあるのでわかりやすいからであろう。九月二十四日からいわゆる『行革国会』が開かれているらしい。それの目的や内容も明らかにされてくるであろうがその前に若干の疑問とするところにふれて見たい。

### ○ わかりにくく、行政改革

(一) 「行政改革と云つても働くものの立場に立つ行政改革もあれば資本の立場に立つ行政改革もある。弱者の立場が強者の立場か、平和のためか戦争のためか、治めるものの立場が治められる国民の立場か、お金から出発しての立場か人間を中心にしての立場か、またその方法についても民主的改革もあればそうでないものもある。恐らく政府としてはそのいづれでもないよう主張するであろうが基本姿勢を先づ明らかにすべきであろう。

(二) 何故急に行政改革が必要と云い出したのか、時と同じくして海の向うのアメリカでもよく似た行政改革を打ち出

しているようであるが、まさかそのお付き合いでもあるまい。日本には日本的事情があり経過があり進むべき道がある。各種の社会保険、年金、手当、医療、教育など国民の暮らし、特に弱い者に極めて関係の深いものばかりがありあげられ、公務員の人べらしも見られるが突然に老人や病人を初め児童や公務員の数が増えたわけでもあるまい。これら各種の制度が見透しもなしに発足したのか、その目的や制度が間違っていたのか、見透しが甘かったとすればその責任を明らかにすべきで財源が不足するからと云う説明では納得できない。行政改革は社会の変化に応じて常に検討し実施すべきもので放置しておいてまとめてやるものでもない。

(三) 行政改革が財政から出発していることにも問題がある。云うでもなく行政と財政は連動して働いているものである。行政でも経営でも先づやるべき仕事とその目的を明らかにしそのため必要な組織、機構を定めその運営のために必要な人材とその数、最後に必要な金を計算して始めて検討の条件が整うものである。政府は国家百年の計と長い名前の法案で「行政一括法案」と云うそうであるが行政改革の基本を示すものでもなく調査会の本答申も見ないうちにただ財政措置だけの法律が先行してからこれでは審議する国会も恐らく困ることであろう。しかもこの法律には面当となつていて、四、五年を減し公務員の数も減らすと云うことのみを先行させていくようである。

(四) 今回の行政改革は臨時行政調査会の

第一次答申なるものが根拠となつてゐるが調査会とはどのようなものか、国には調査会、審議会、懇談会、委員会など法律に根拠のあるものや私的なものなど色々あって地方の自治体にも付き合いでいる。日本には日本的事情があり経過があり進むべき道がある。各種の社会保険、年金、手当、医療、教育など国民の暮らし、特に弱い者に極めて関係の深いものばかりがありあげられ、公務員の人べらしも見られるが突然に老人や病人を初め児童や公務員の数が増えたわけでもあるまい。これら各種の制度が見透しもなしに発足したのか、その目的や制度が間違っていたのか、見透しが甘かったとすればその責任を明らかにすべきで財源が不足するからと云う説明では納得できない。行政改革は社会の変化に応じて常に検討し実施すべきもので放置しておいてまとめてやるものでもない。

(五) 行政改革の法案は「行政改革を推進するため当面講すべき措置の一環としての国の補助金等の削減その他臨時の特別措置に関する法律」と云う長い名前の法案で「行政一括法案」と云うそうであるが行政改革の基本を示すものでもなく調査会の本答申も見ないうちにただ財政措置だけの法律が先行してからこれでは審議する国会も恐らく困ることであろう。しかもこの法律には面当となつていて、四、五年を減らすと云う赤字の原因とその責任を明らかにしてもらいたい。

本答申が出てそのまま確定すれば当然だらうと云つて安心は出来ないものである。

六) 行革法案の内容には国の補助を削つて地方の自治体に肩替りさせるものや補助金の替りに融資に切替えるものも含まれており、これは地方にしわよせしつけ将来に廻すだけで行政改革とは似て非なるものである。

### ○ 暮らしの行政改革

以上取りあげたものだけから見てもいわゆる行政改革のルールから全くは違っているもので、結局軍事費は別、インフレで自然増収があつても、減税せず老人、病人、子供など福祉、医療教育の助成を削減して来年度予算の地ならしだけが目的のようである。国会では人事院勧告、退職手当の切下げ、仲裁裁定、地方公務員の定年制などの法案を行革法案とからませるかケヒヤが予想される。政治にはカケヒキがあることは否定しないがカケヒキが政治ではない。まして権力と金と多数を背景にして批判に耳を傾げず、國民を忘れたカケヒキはやめてもらいたい。又金と云つても一部政治家や官僚のものではなく國民の税金であり國民の働きが生み出したものである。國民の暮らしに直結する行政改革であるからみんなの力でカケヒキやカケヒキを許さず、政治も行政も弱者を守り人間のためにある事を強く訴えたい。

そして赤字財政を云うならその前に赤字の原因とその責任を明らかにしてもらいたい。(稻田達夫)

## 第18回研究例会報告

## 敗戦直後の京都での人民闘争

小柳津恒

(1) 昭二〇年八月二〇日灯火管制解除、新しい時代への夜明けだ。だが街はまだ暗かった。当時は淀野三吉(仏文学者隆三)の淀野重工(京阪桃山駅西隣)に勤務中だった。敗戦後は特高も来ず、保護司黒田からの連絡もなし、それでも治維法はまだ生きていた。しかし十月四日遂に同法は廃止となつた。

敗戦直前はこの維持法をすら無視する軍部の残虐極まる計画のあつたこと、戦後間もなく知らされて慄然とした。それは、敵軍上陸直前に思想犯を銃殺せよと在郷軍人会に密令があつたとか、思想犯全員を船に乗せて大海の藻屑にするとかの話である。今ここに二〇年一二月一九日の『毎日新聞』記事を引き合いに出すと、一九年四月滋賀県下配属将校会議で、京阪神混亂に陥ったとき、実戦武道を活用して、まづ京都学派一統を槍玉にあげよという中部軍指令があつた、との記載がある。

話を本筋にもどして。治維法廃止直後の或る日、村上信秀さんが淀野重工に私を訪ね、伏見桃山貨物の労働者の間に待遇上の不満で動きそうな気配があると伝えてきたので、急ぎ二人は桃貨の運転手永田、野村その他の人達と話し合い、要求項目の整理と組合結成の必要性を説いて帰つた。

かくなる上は、旧労働組合運動者を

糾合して、指導的組合を作ろうと、南善蔵、高木勝之助ともはかつて、旧全評の人達への呼びかけとなり、そのため数人が東福寺末寺万念寺に集まつたのが十月の下旬だった。こんなことになる恰度直前に、国島泰次郎氏から、労組の旗揚げに参加を勧説され、十月十六日中京の鶯塚亭で、高木と私の四名が京滋から参加した。議長辻井民之助、援助、井家上専の両氏の司会で、総同盟一本合結準備会をもつた。これは一月十九日になって、京都機械工組合準備会となり、すぐ京都機械で黒田誠一氏その他と京都機械労働組合結成を協議した。

(2) 私が専念した京滋一般の方は十一月十五日に二〇数名が集まって準備会を結成した。南善蔵が名目上の委員長で、村上、私が専任で、高木勝之助、高沢仁三吉、浅川憲治、駒井栄之助、左京の田畠、農民協議会に専心した田中房次郎、西陣に力を入れた婦士、赤石円三郎という諸氏参加、泉長次などは後に参加、変つたところで大津の土建屋さんの福原さんが加わっていた。

京滋一般結成の動きの前の十月二一日、京都新聞会館に「解放運動犠牲者出獄歓迎大会」が開催され、南、村上、私の三名は期待に胸を踊らせながら会

場に入った。立雖の余地なき超満員で熱氣に溢れていた。この会の演説者として最後に立つた徳田球一さんが、人間解放連盟の即時結成を訴えた。なおり京大生であった若杉光夫君が飛び入りで『学生よ起ち上れ』と叫んだ。これが京都の戦後学生運動のつけ火となつたのである。

この大会の後の十月二六日四条大宮の更雀寺で、日本社会党京都支部準備会提唱の労働組合組織準備会が開かれ、南、村上、高木と私の四名が京滋から参加した。議長辻井民之助、援助、井家上専の両氏の司会で、総同盟一本組織方針だった。組織問題で相当討議されたが、戦犯と裏切り者は参加させないの問題に一番花が咲いた。水谷泰次郎され、最も組上に乗せられた一人だ

(3) 僕でここに面白いエピソードがある。この席に犠牲者出獄歓迎大会で熱辨を振った竹中恒三郎さんが顔を出していった。しかも辻井さんが竹中さんを組合書記志望の方だと紹介した。竹中さんが総同盟に首を突込もうとする姿に私は怪訝な思いにからまれた。

これから数日も経たないうちに、京二、立野正一、秋田清二郎、赤石円三郎、若杉光夫の諸氏、それから平林(内山)国子さんもそうだと思う。岡本勝一、緑屋寿雄の両氏は私ども三名のすぐ次ぎくらいであろう。そして入党後面識を得たのが、市電の中林、宇治の中井、朝鮮の余という方々であった。ついでであるが、余さんが百万辺で三一書房という古本屋を経営していたが、これが今日の三一書房の前身である。それから泉隆さん、藤谷俊雄さん等とも年内に知り合つたと思う。

共産党的事務所は丸太町川端下ル和風書院に京都人民解放連盟と一緒に同じ居し、その事務までも混入の状態であ

入党を約束した。

その後間もなく十一月の初め、左京吉田の小林為太郎さんの二階で党员集会があるとの連絡があつて、我々三名とも同所に趣いた。たつた十名足らずの集会で、主としてオルゲ活動の問題で、特に京都市電をどうするかの協議があつて、そのオルゲは烏丸を小松勝子、壬生を塩谷、九条を細川の担当とされました。この会合に岡本勝一さんが、開け放された別室に座つて、まだ入党手続をしていないと、動きも会談参加もしなかつたことが、今でも私の頭に印象づけられている。岡本さんの党员番号が十二番になつてゐるが、これは事実と違う。また緑屋寿雄さんも加わり、会談に参加したが、これまた入党手続前であった。同氏は解放連盟で私は会つたと発表されているが、実はこの前、住谷先生の面前で私と会つている。

次に二十年未までに私が知り合つた党员の方々は、私より古いのに、川上賢一郎、小松夫妻、竹中、細川三四郎、塩谷寛二、立野正一、秋田清二郎、赤石円三郎、若杉光夫の諸氏、それから平林(内山)国子さんもそうだと思う。岡本勝一、緑屋寿雄の両氏は私ども三名のすぐ次ぎくらいであろう。そして入党後面識を得たのが、市電の中林、宇治の中井、朝鮮の余という方々であった。ついでであるが、余さんが百万辺で三一書房という古本屋を経営していたが、これが今日の三一書房の前身である。それから泉隆さん、藤谷俊雄さん等とも年内に知り合つたと思う。

った。和風書院は北川彰・安井信雄両先生の尽力で借り入れられた建物である。この解放連盟の設立には太田典礼さんは勿論であるが、山内年彦さんその他他の知識人の働きが多かった。さて人民解放連盟の意義を簡単に述べると次の通りになると思う。即ち、人民解放連盟は人民統一戦線であって、中央集権的指導機関ではない。このほかに人民解放委員会があつて、ここに労組運動、農民運動、失業運動等の過程のなかで、人民戦線の基礎組織となり、革命推進組織となる。これが人民解放連盟に民主政党とともに加わるべきものである。これが共産党中央の考へ方である。

(4) 京都人民解放連盟に集まる人々は共産党員及び党同調者が多かった。従つて天皇制についての取扱い方に問題があつて、二つに分かれていた。徳球さん直属を自認する小松雄一郎さんを先頭とする一統は、「天皇制打倒を大上段に構えて進む」とあり、他はこれに反対する人々で、これが多かった。この反対を称える人々の意見を代弁するものは、「天皇制打倒は党的なスローガンとしては当然で議論の余地はないが、これをただちに、大衆活動の中心スローガンとして、特に人民戦線戦術の中心的スローガンにするのは、當時の天皇制の神秘性からスッカリ解放されない人民大衆を指導するために不適当しない。即ち党を指導すると大衆を指導するとは別個である。問題は當面、先づ、人権の確立の下に立つ憲法改正であり、その旗印の下に実

現される人民戦線的連立政府の樹立でなければならぬ。」と一月二〇日発行『民主評論』にある戸田慎太郎「天皇制廃止の基礎問題に就て」のなかで述べられた言葉であると思う。

また変ったものは、中西理論で、今更天皇制打倒とか、二段階革命論でもあるまい、今やプロレタリア革命の段階にあるのだ、というのであって、京都で塩谷さんがこれを代表し、後に党员になつた名和統一さんがバクアップしていた。

(5)

次には結成直後の人民解放連盟の主な活動を述べることにするが、京滋一般労組の運動とも重なることが多い。

一月一日に主食三合配給要求の人民大会を全市に開く決議をしているが、一月二五日にいたつて、新京極松竹劇場前広場で、その街頭宣伝煽動の活動を行ひ、年末の一月二八日に連盟リードの下で、民主諸団体集合の食糧要求の人民大会を京都府庁前に開いた。

一二月五日、これは京滋一般の主唱ではあるが、朝鮮人団体、農民協議会準備会とも一諸になつて、「山本宣治記念、飢餓対策大会」を宇治の昭和館で開催し、統いて一二月一六日、人民解放連盟、社共両党、京滋一般、近代日本史研究会、農民協議会共催の一故山宣追悼会の演説会を同昭和館で開催、このとき有名な河上肇博士の「亡友『山宣』に捧ぐ、悪法への死の抗争、敗戦直後の発足は二〇〇年一月末、左

年を越しての一月一四日の人民戦線が開かれた。一月二〇日、京都新聞行『民主評論』における人民戦線京都協議会も解説された言葉であると思う。

また変ったものは、中西理論で、今

協議会準備懇談会、一八日の京都新聞における人民戦線京都協議会も解放連盟主唱のもとにと云つて差し支えがない。

(6)

また解放連盟は新しい教育運動として「京都人民学校」の開設を企てている。開校は二月一〇日となつて、能勢克男、太田典礼、小林恵之助、細野武夫、竹中恒三郎、本多謙、内山国

という講師陣であった。

一月に入ると企業単位の労働組合が陸續と発生するが、ここでは略する。

たゞ毛色の変わつたサラリーマン協会に就て一寸話しておき度い。

この協会は一二月二日、昭和一七

C・Aで発会式を行なつた。昭和一七年の所謂「市役所内裏賀ループ事件」

に多少とも縁をもつた人たちが主になつてつくり上げたものである。社会党の

「戦後三十年の闘い」のなかに、田畠

忍同大教授によつてあるが、むしろ

石田良三郎、井家上専らによりと訂正すべきである。この協会の役員たちは、

石田良三郎、井家上専、松島吉之助、

前沢平郎、中川忠次、佐々木義雄、秋

田清二郎、小柳津恒、鈴木棋、平井栄

一、西岡某の各氏である。この協会は

短命であったが、確かに相当な革新的役割をしている。

この協会の発会式で秋田君が、消費組合運動について話している。これらの

問題では十月九日におこった出水学区の隠匿物資摘発闘争は京都における当該闘争の発端であり、指導的モデルともなつた。故品角一郎さんの「岩に憑かれた男」にそれが書いてある。ただ同氏のはその後の量目不足摘発闘争とゴシヤになつていて、配給品の不足を怒つたのは一月三日の上京春日町新烏丸頭町内会の町民大会である。

食糧とか、消費組合とか云うと、婦人の運動を思い出す。もっとも戦後の婦人問題としては婦人解放とその向上にある。消費組合活動も望みながら、勤労女性の生活向上をめざして起つ上がつたのが、一二月二三日結成の京都勤労婦人連盟である。会長が杉本練染の渡辺のえ女史である。彼女は戦前市役所グループの研究会に出入りしていたので、私はよく知つてゐる。この婦人連盟には世話役のなかに、今の国救の児島とみさんを見出す。この連盟の一歩先きの一二月一日に市川房枝が規約その他の説明をやつた。徳田義

三さん、秋田君ら十名ほどの集会で、私も出席した。

(7)

の息かかる新日本婦人同盟京都支部が結成され、森定春枝が支部長である。もつとも連盟の準備会の方が先きであった。一二月二三日になると桂女専中心の女性研究会が発生する。

(8)

先に述べたように若杉君の火付けは、遂に一二月八日河原町三条天主堂で、全京都学生同盟結成準備会、二四大学高専の結集に盛り上がった。一月二〇日に京都学生連盟結成と、住谷、小倉、高桑先生たちの共著『日本学生運動史』にでているのは、一二月八日への準備段階でつくられたものと思う。文化運動については、上野輝将さんが、「戦後京都における文化運動と知識人」に、藤谷さんが当会で発表され、特に京大の松尾尊允さんが「敗戦直後の京都民主戦線」で詳細に書いておられるので、これを省くことにするが、ただ田村敬男さんの大雅堂出版雑誌『時論』と、儀我庄一郎さん発刊雑誌『新社会』が、ともに二一年一月一日発行になっていることを発表しておく。各政党の動きも無視できないが、こではこれを割愛する。

最後に再び共産党にもどる。徳球さんは十月十二日に、当時宇治化学の重役だった小松雄一郎さんを京都の党再建組織責任者に任命したところに軽卒さがみられる。竹中恒三郎さんを補佐につけたが、小松さんの戦前活動舞台は京都ではなかった。そこに馴じみはなかつた。従つて塩谷さんや太田典礼さんなどとうまくいく筈がなく、京都

の文化人の多くが小松さんにはなじまなかつた。また戦前の合法左翼の人たちでさえ、『この若僧』がという対立感情があつた。

病床中の河上博士が分裂を中心配して、名和統一さんを通じて、塩谷さんに警告があつたという話である。

十月二十日にはアカハタ再刊第一号が出た。ハタが山科駅に着く毎に蟹江さんが手伝つて運んでくれたそうである。その蟹江さんは共産党には入党しなかつた。

最初の事務は竹中さんで、解放連盟のそれとほとんど区別がなかつたようだ、財政でさえそうであつたらしい。

後に赤石さんが財政責任者にきめられたそうである。財政如何は他面で党そのものを談るものである。

その後に京大の松尾尊允さんが「敗戦直後の京都民主戦線」で詳細に書いておられるので、これを省くことにするが、ただ田村敬男さんの大雅堂出版雑誌『時論』と、儀我庄一郎さん発刊雑誌『新社会』が、ともに二一年一月一日発行になっていることを発表しておく。各政党の動きも無視できないが、こではこれを割愛する。

(9)

それから桃山貨物争議指導中で最も重要な段階にきていたので、私と村上さんは途中退席した。このとき支援の資金カンパが集められ、私どもはそれを持つて、熱烈な拍手に送られて、師走の夜の街をまっしづぐらに急いで桃山貨物争議団にもどり、カンパと報告をおこつたところ、労働者大衆は手を叩き、足を踊らせて、よろこびの歓声をあげた。

## 第19回研究例会報告——

### 京都北丹の農民運動について

福知山市の細見幸基宅での研究会には、京都から木村京太郎、北牧孝三、湯浅貞夫、綾部市の井上甚太郎、地元福知山からは細見幸基夫妻、北山与、本田弥一、宮津市の沢村秀夫らの諸氏の十余名参加、午後二時から夕方まで行なわれた。

はじめに報告予定者の故品角小文さんが参加できなくなつたので故一郎氏の遺作の絵を参加者に贈られました。次に同じく参加予定であった芦田氏の手紙(別掲)が細見氏から紹介され、それを補足する形で北山与氏から戦前の活動が紹介され、続いて、細見氏からの活動が紹介され、続いて、細見氏から山宣の演説会(暗殺直前の)の様子、戦前の宮津の活動家で死去した長田初の或る夜、安井信雄先生宅二階で全員集会がもたれ、三十名ほどの党员が集まつた。今までの党活動や中央の報告があつたが、その際に私は桃山貨物自動車争議経過報告をやつた。諸報告が終つて、京都地方委員会拡大促進委員の互選が行なわれ、労働側を代表するものとして私は委員の一人を選ばれた。

それから桃山貨物争議指導中で最も重要な段階にきていたので、私と村上さんは途中退席した。このとき支援の資金カンパが集められ、私どもはそれを持つて、熱烈な拍手に送られて、師走の夜の街をまっしづぐらに急いで桃山貨物争議団にもどり、カンパと報告をおこつたところ、労働者大衆は手を叩き、足を踊らせて、よろこびの歓声をあげた。

### 福知山大呂の小作争議と私

**芦田喜之助**

細見さんのお電話で、是非古い同志各位の集会に参加させていただきたいと思っていましたが、仕事の都合で、残念ながら参加できません。そこで、戦前(昭六年頃より)の記憶をたどつて、綴つてみますが、手元に記録はなく、五十年余りの過し方を思つて、今

によつて戦前の福知山地方の革新運動の一端をお話し致し度いと存じます。

私は電信電話技術官の一技術として、大阪通信局工務課福知山電信電話技術官に勤務したのは昭和三年五月、技術官の養成教育をうけて同所に就任したときは丁度私の徵兵検査でもあります。同所に勤務すること三年、昭和四、

五年には福知山のケーブル配線工事計画、宮津の配線計画をやりましたが、その間、農民出身である私の頭をいつも去りやらぬ問題がありました。それはいわゆる私の勤務している職場と農村の生活較差のことでした。その頃、市販で『社会科学』という雑誌が売られており、私達のような通信労働者より、尚末辺に生きる階層のある農民の生活にひどい疑問をもつたのです。

昭和六年頃、当時の柏原女学校の専科に通っていた永田初枝さんとも、はからずも細見幸基さんの父、文治さん（経営する大衆診療所（医師は飯田三美先生））で知り合いました。永田さんは水平社出身で、いろいろ社会問題について話し合い、その中で農民の生活、水平社諸氏の身分的差別、それに加えて当時は満州事変の起きる前であり、国のは益々その差別、較差をおおり立て、戦争への道を切りひらいていたさ中でした。

私は文化サークルを通じ、プロキノの矢野（朝鮮出身者と思う）、絵屋寿雄氏等と知り合い、その指導の下に、当時といわゆる社会主義運動を開して参りました。

(二)

プロキノの映画（勿論非合法）をもつて、中竹田、日野山田、そして福知山の私の借住居（鉄物師町）で映画の公開をして参りました。またまその中で大呂における天寧寺の寺社領田（約二町歩あつたと思いますが）の小作料の引上げの問題が起

きました。それがいわゆる私の勤務している職場と農村の生活較差のことでした。その間、農民出身である私の頭をいつも去りやらぬ問題がありました。それはいわゆる私の勤務している職場と農村の生活較差のことでした。その間、農民出身である私の頭をいつも去りやらぬ問題がありました。

五年には福知山のケーブル配線工事計画、宮津の配線計画をやりましたが、その間、農民出身である私の頭をいつも去りやらぬ問題がありました。それはいわゆる私の勤務している職場と農村の生活較差のことでした。その間、農民出身である私の頭をいつも去りやらぬ問題がありました。

君）等の指導を得て、大呂の公会堂で同部落の小作の方々（加藤さん他多数）と話し合いをもち、同部落の大半の方々と斗争に立ち上がりました。おそらく福知山地方における最初で、しかも最後のものでなかつたかと思います。

當時を回顧すれば、小作料は四升、三升五合、三升というようになります。今から思えばまことにひどいものでした。四升ということは一束代（約三十坪）で、五十束代が今の一反（一〇〇〇畝）です。ですから、一反の小作料は四升田で二石、当時の収穫量は二石六斗乃至二石八斗です。小作人に残るところは六斗（八斗にしかなりません）。

それをより以上に引きあげて四升五合（記憶ははつきりしていませんが）というようなことで、当時の部落農民は自区のお寺である地主から苛斂誅求の小作料を要求されたのでした。

そこで細見文治（幸基さんの父）さんとも相談の上、大呂の小作争議を同部落の小作の有志達と共に起したのでした。

その後、福知山警察を出て、長野県大糸線の工事現場の測量に入り、そこ

で東京から来たスペイにやられました。

大町警察に約半年、雪深い頃、信州の南小谷村より、大町警察に入り、出たときは木崎湖の水辺に白いカキツバタの花が咲いていたのを今でも印象深く思い出されます。

戦争がいいよきびしく、弟の戦死と共に故郷に帰り、農業に従事し、終戦をむかえました。そこで、大阪の都島分会の同志より、京都の絵屋寿雄君のところを聞き、同君宅にたどりつき、同君とともに他数名の同志とともに今後の運動を協議していくとき、奇しくも河上肇先生の訃報が入りました。そのとき中丹の委員会の準備会結成を決意しました。その後に福知山に帰り、細見文治氏、北山与氏と共に日本共産党中央丹準備委員会を結成、中央より、

岐津の明日ヶ橋、明智鉄道の建設測量等をして、逃げ廻り、約半年後、特高のため福知山に護送されました（その間、永田初枝さんより『赤旗』の郵送く福知山地方における最初で、しかも最後のものでなかつたかと思います）。

福知山警察では、既に細見さん、北山さん、吉見さんらの供述の追認のよ

うな形でした。勿論、治安維持法にはからなかつた（註『赤旗』等は読後すべて処理していた）。

そんなわけで大呂の小作争議の結果は知ることができなかつたのです。

（四）

その後、福知山警察を出て、長野県大糸線の工事現場の測量に入り、そこ

で東京から来たスペイにやられました。

大町警察に約半年、雪深い頃、信州の南小谷村より、大町警察に入り、出たときは木崎湖の水辺に白いカキツバタの花が咲いていたのを今でも印象深く思い出されます。

戦争がいいよきびしく、弟の戦死と共に故郷に帰り、農業に従事し、終戦をむかえました。そこで、大阪の都島分会の同志より、京都の絵屋寿雄君のところを聞き、同君宅にたどりつき、同君とともに他数名の同志とともに今後の運動を協議していくとき、奇しくも河上肇先生の訃報が入りました。そのとき中丹の委員会の準備会結成を決意しました。その後に福知山に帰り、細見文治氏、北山与氏と共に日本共産党中央丹準備委員会を結成、中央より、

岐津の明日ヶ橋、明智鉄道の建設測量等をして、逃げ廻り、約半年後、特高のため福知山に護送されました（その間、永田初枝さんより『赤旗』の郵送く福知山地方における最初で、しかも最後のものでなかつたかと思います）。

福知山警察では、既に細見さん、北山さん、吉見さんらの供述の追認のよ

うな形でした。勿論、治安維持法にはからなかつた（註『赤旗』等は読後すべて処理していた）。

そんなわけで大呂の小作争議の結果は知ことができなかつたのです。

（会員だより）

### 宗教者としての平和運動

上京 細井友晋

今年十月は祖師日蓮聖人の七百年忌に当たります。

七百年前の日蓮聖人でなく、現在が必要とする日蓮として再考し、顕現する必要を通感しています。

日蓮は現代を悪世、法滅尽の時だと判断し、世界の終末を意味する核戦争による自滅をおそれ、それを救うものは正法（真正の法理）の確立であると

私たちには、この考え方と行動を現代のとき中丹の委員会の準備会結成を決意しました。その後に福知山に帰り、細見文治氏、北山与氏と共に日本共産党中央丹準備委員会を結成、中央より、

復活すべく、この十月二十八日「正法興隆立正平和本山集会」を東京で開くことにしました。それが宗教者としての平和運動だとして、それを成功させた準備にとりこんでいます。

（上京区北野一丁目 立本寺）

# 戦前・戦後の京都の農民運動について

湯 浅 貞 夫

## 一、戦前の農村事情

### 1. 日本農村の支配機構

戦前の日本は主要な帝国主義の一つであったが、日本人民は天皇制権力の野蕃な支配のもと、地主と独占資本のはげしい収奪と榨取をうけ、悪い生活条件と無権利状態においていた。特に日本の小作人は、半封建的地主制度のもとに、反当収穫量約二石五斗の米のうち約一石五斗を小作料として地主に納入させられていた。

明治政府は国家財政の七〇%を占める地租を地主にかけ、地主はそのしわよせを小作料の値上げでまかなかった。そのため耕作農民は土地を手放し低賃金労働者となり、急速な資本蓄積の一端を担わせられた。それで日本は国内市場が狭隘化し資本の海外輸出をもたらし侵略戦争の震源地となつた。

したがつて日本の労働者、農民の真の敵は寄生地主と独占資本家の利益を代表しながら同時に相対的の独立性をもつて支配している天皇制があつた。

### 2. 戦前の農民組合運動

大正七年（一九一八）米騒動のあと小作争議は小作料減免運動を中心に関国的に広がり各地に小作人組合がつくられた。そして大正十一年（一九二二）日本の農民大衆の全国組織・日本農民組合（賀川豊彦、杉山元治郎）が創立された。

京都では、明治二〇年代、紀伊郡（伏見）などに小作人組合がつくられた記録はあつたが、大正時代の農民組織は、當時、労働組合の友愛会が指導し辻井民之助や国領五一郎等が労農演説会を開き、嵯峨では農民学校が開設され、啓蒙運動が行われた。辻井民之助は農民学校が開設された。當時の争議は警察や国粹会が介入し地主は小作調停法をたてにとり地主会（北桑農業会（葛野）農友会（西京）などをつくり小作人組合に対抗した。そして立入禁止、立毛差押などの対抗手段で農民を圧迫した。小作人は耕作権を守るために植付強行、同盟休校、村税不納、消防団辞退などの戦術をとる佐山村の斗争などが行われた。この斗争の中で日本農民組合は全国五〇八支部五万三千人をかぞえ、京都の組織は三九支部四〇五四名が結集した。

農民の政治意識も高揚し、大正十四年（一九二五）には日農の無産政党樹立の提唱により、労働農民党（大山郁夫）が結成された。右派の反対派は社会大衆党（安部機雄）日労党（麻生久）日本農民党（平野力三）等をつくった。昭和二年（一九二七）二月、口丹波の補欠選挙が行われ、労農党は山本宣治をたてた。これには敗北したが、昭和三年二月の第一回普選による衆議院選挙には京都一区水谷長三郎、二区山吉、袖田貞次郎等が選ばれた。そしてこの組合は政治的自由獲得労農同盟運動や対支非干渉運動などにも取りくんだ。

### 3. 戰時中の農民運動

#### 支配階級は、労農運動の前進をおそ

れ、昭和三年三月一五日、日本共産党団体交渉に進み「小作料の二割、三割の减免、耕作権の確立」などが斗われた。當時の争議は警察や国粹会が介入し地主は小作調停法をたてにとり地主会（北桑農業会（葛野）農友会（西京）などをつくり小作人組合に対抗した。そして立入禁止、立毛差押などの対抗手段で農民を圧迫した。小作人は耕作権を守るために植付強行、同盟休校、村税不納、消防団辞退などの戦術をとる佐山村の斗争などが行われた。この斗争の中で日本農民組合は全国五〇八支部五万三千人をかぞえ、京都の組織は三九支部四〇五四名が結集した。

#### 支配階級は、労農運動の前進をおそ

れ、昭和三年三月一五日、日本共産党団体交渉に進み「小作料の二割、三割の减免、耕作権の確立」などが斗われた。當時の争議は警察や国粹会が介入し地主は小作調停法をたてにとり地主会（北桑農業会（葛野）農友会（西京）などをつくり小作人組合に対抗した。そして立入禁止、立毛差押などの対抗手段で農民を圧迫した。小作人は耕作権を守るために植付強行、同盟休校、村税不納、消防団辞退などの戦術をとる佐山村の斗争などが行われた。この斗争の中で日本農民組合は全国五〇八支部五万三千人をかぞえ、京都の組織は三九支部四〇五四名が結集した。

一方、昭和六年には全農内部に右派の革新同盟（亀谷益之助）が生れ、左翼の全国会議派（森英吉）ができ分裂した。裁判斗争にまで発展した昭和五年の河原林村の争議や、昭和八年の全国会議派の指導した福知山大呂の争議は誠に戦闘的であった。昭和十年小作争議は最高の件数を示したが十一年には相

本宣治の両氏が当選した。山本の主な主張は「土地を耕作農民へ」であった。昭和三年、全国的にも日農と全日農とが合同し全国農民組合ができる。京都府連は委員長に森英吉。執行委員に山本宣治、河上肇、木村忠一、小野治三吉、袖田貞次郎等が選ばれた。そしてこの組合は政治的自由獲得労農同盟運動や対支非干渉運動などにも取りくんだ。

### 二、戦後の農民運動

#### 敗戦後の農民運動の再建

日本を占領した連合国総司令官マッカーサーは、占領政策の一環として旧日本の支配勢力の基盤をくずしあわせて民主革命を流産させる一定の措置を取りつた。天皇制を君主制に、超國家主義者の追放と政治犯の釈放、財閥と地主の解体など、これは日本人民の争争の反映でもあった。

戦後の農民運動の再建は昭和二〇年十月、獄中の共産党幹部を釈放、全长月の農民組合世話大会（平野力三、野溝勝）の発足で促進された。昭和二一年再建された日本農民組合は翌年一三〇万人を擁する大衆組織に発展した。そして、農地改革、供出と配給、税金、村政民主化、文化等多岐に渡る斗争が行われた。

### 2. 農地改革の斗い

昭和二年二月一日政府は第一次農地改革を発表した。五町歩以下の小作地保有、隣村小作地所有者も在村地主とみなす。地主自作化には土地取上げを認める方針であったため農民の猛烈な反対にあつた。そのため第二次農地改革案がだされ、一町歩の地主保有を認め小作料の金納公定化、耕作権の確立、農地移動は知事認可、農地委員会構成（小作五、自作二、地主三）など

本の米生産は、昭和十七年六、六〇〇万石、十八年六、二〇〇万石。十九年五、八〇〇万石。二〇年三、五〇〇万石と極度にへり、食糧と物資の欠乏は、国民生活と戦力低下をもたらし昭和二〇年（一九四五）八月十五日遂に日本帝国主義は敗北した。

昭和十六年大東亜戦争となると、日本は占領した連合国総司令官マッカーサーは、占領政策の一環として旧日本の支配勢力の基盤をくずしあわせて民主革命を流産させる一定の措置を取りつた。天皇制を君主制に、超國家主義者の追放と政治犯の釈放、財閥と地主の解体など、これは日本人民の争争の反映でもあった。

戦後の農民運動の再建は昭和二〇年十月、獄中の共産党幹部を釈放、全长月の農民組合世話大会（平野力三、野溝勝）の発足で促進された。昭和二一年再建された日本農民組合は翌年一三〇万人を擁する大衆組織に発展した。そして、農地改革、供出と配給、税金、村政民主化、文化等多岐に渡る斗争が行われた。

がきまり、全国二三四万人の地主から一九九万ヘクタールの小作地が四七五万人の小作人に解放された。京都では昭和二七年を最後に一万五千町歩を解放した。

農地改革は寄生地主制を基本的に解体した。が、問題点としては山林が除外され、二反以下の耕作者は解放の対象外にされたことである。農民組合は、農地委員会に組合員を送り、地主の土地売逃を防ぎ、小作料の一括納入斗争を行った。京都八万農家のうち二万人の農民組合が組織されたのはこの時であった、泉隆や品角一郎の指導で芦田首相の不正土地解放斗争も行われた。

3. 供米斗争

政府は戦中戦後の食糧政策として官僚的割当を行い供出米を強制した。京都の割当量は昭和二〇年四〇万六、〇〇〇石、二三年、四〇万一、〇〇〇石、二五年二六万二、四〇〇石。二七年二万五、〇〇〇石等であった。農民組合は自家保有米獲得、自主供出、強権發動反対、米軍のジャープ供出には身をもって抵抗した。綾部上林の米よこせ斗争（井上甚太郎）は昭和二五年から二七年までつづいた。

昭和二六年（一九五二）には、ルイセンニ学説にもとづくミチユーリン農法（徳田御稔、山内年彦）の組織化。桂、川敷の三菱軍事工場用地返還斗争などが斗われた。

#### 4. 政治的高揚と組合

昭和二二年、京都の日農府連は会長坂本兵蔵、副に桂長一、書記長泉隆。昭和二四年には分裂し統一派（安川房次郎）と主体性派（永井健）ができた。

昭和二四年、総選挙で共産党三五名の当選、京都では谷口善太郎、河田賢治が当選し、民主戦線統一會議ができ、市長に高山義三、知事に鰐川虎三、参議院議員に大山郁夫氏を当選させた。

占領司令官マッカーサーは、昭和二五年六月、共産党幹部を追放すると同時に全国的な組合幹部のレッドペーパーを行った。共産党の内部も不幸な分裂がおき、農地改革の評価などをあやまり一部極左的な反帝反封建斗争などを行ったが、これを反省して反帝反独占の斗争に転換した。

昭和二三年（一九五七）自作農維持斗争（山中高吉、藤川竹夫）、鰐川府政による野菜、家畜の価格保証斗争等々、農業経営改善と反独占の斗争が展開された。これらの斗争によって農地改革で土地もになり一時沈滞していた農民斗争も再び活発となつた。

昭和三三年（一九五八）全日本農民組合の全国的統一が実現し、京都も府連を結成し、会長に木村忠一、副に溝口寿雄、書記長に奥田茂雄が選ばれた。

昭和三四年近藤一、三六年井上甚太郎、四六年沼田重一、以後藤川竹夫が府連会長に選ばれ今日に至つてゐる。

5. 農村労働者の斗争

昭和二八年の大水害は京都地方にも甚大な被害をもたらした。昭和三八年二月一七日土木工事に従事する農村労働者や、山林労働者をもつて京都府農村労働組合（大島一彦）が結成された、これは農村の新しい階級関係に合致した組織方針であった。また、農村の安い労働力をめあてに農村に内職工場が

進出し、丹後の農村も紡織物企業への転換が進み、農村主婦は大量にこの工場に働くようになつた。われわれは、あらゆる農民攻撃に全面的に斗つていくことが大切な時期なのである。（完）

#### 6. 農基法・構造改善

#### 政策との斗争

日本を支配する米日反動は高度経済成長政策で重化学工業重点政策をとり日本農業を切りとする方向を進めた。農業機械化の進行も健全な農業の再生方式でなく農業外収入をもつてあてある有様で一層、独占資本の農村支配を強める結果となつてゐる。そのため、専業農家はへり第二種兼業は増大し、京都府有業人口中、農業の占める位置はわずか八%となつたのである。

こうして農村に於ける過疎と過密はその極に達した。芦生ナメコ組合（今井重一）洛西農民同盟（池田源太郎）が府連を結成し、会長に木村忠一、副に溝口寿雄、書記長に奥田茂雄が選ばれた。そして昭和三四年近藤一、三六年井上甚太郎、四六年沼田重一、以後藤川竹夫が府連会長に選ばれ今日に至つてゐる。

市場の開拓も不調である。都市近郊の地価暴騰による巨万の富をつかむ人々は別として、山村僻地の農村は、都会からはきだされる過剩人口を吸収する力を見つた。抜きがたい世界不況と構造的危機の前には救いがたい矛盾を露呈するだらう。今日、食管制度を守り宅地並課税反対、自主転作と土地基盤整備の遂行、電力線下保障、軍拡、臨

は、民族自立の必須条件の一つでもある。我々は多年に渡る革命的伝統の斗争を生きかして労働者階級と共に米日反動のあらゆる農民攻撃に全面的に斗つていくことが大切な時期なのである。（完）

#### 第一二ページよりつづく

#### 燎原 総目次（続）

#### 第一五号（14 p）八一年・五・一刊

故品角一郎さんの思い出（北牧孝三）  
故品角一郎さんの思い出（北牧孝三）  
戦前の京都における無産診療運動について（杉山茂） 鰐川虎三さんを語る（稻田達夫） 一矢を酬つた話（住谷悦治）『土曜日』以後（斎藤雷太郎）国領伍一郎墓前祭全国各地から、会員誌友だより。

#### 第一六号（10 p）八一年六・一刊

もう黙つてはいられない（山田）  
故品角一郎さんの思い出（北牧孝三）  
アメリカとの文化交流はまだ低調（住谷悦治）『聴き書き屋の弁』（井垣次光）『土曜日』以後（斎藤雷太郎）各地の仲間から、会員誌友だより、事務局だより。

#### 第一七号（14 p）八一年七・一刊

ウソとタデマエの政治は平和と民主主義の危機（稻田達夫）、井垣次光氏を悼む・『土曜日』以後（斎藤雷太郎）京都の文化運動を語る（大岡欣治）、新青服劇場（西村清三）品角さんの思い出（石田昭子）父兼光の想い出（細迫朝夫）、海外侵略の足音（住谷悦治）、会員、誌友だより、事務局から

（以下次号）

# 父、兼光の想い出(二)

## 新労農党をめぐつて (2)

### 細迫朝夫

父、兼光の遺稿に、といつても「序」に止まっているにすぎないが、「新労農党的経験」と題するものがある。それは、河上先生から再三にわたって、この経験・教訓を書いておけと云われているから、とある。父もまたそれを生涯の念願としていたが、遂にそれを果しえずして逝った。

しかし、要点は、前掲の「河上先生と実践」(『回想の河上』所収)に簡潔に述べている。やや長くなるが、引用をしておく。

「山宣殺され、治安維持法は狂暴化され、ついで四月十六日、所謂四・一六の共産党に対する第二次大検挙の嵐は全国を狂暴に吹きまくり、われらの陣営はまことに名状すべからざる大打撃を蒙った。その後のわが陣営は実に苦難そのものであった。牢獄に奪い去られる者の数えきれぬことは云うまでもなく、苦難に堪えずして陣営を去るものもあり、必然に、われらの頼む基礎的組織たる労働組合、農民組合も弱化を免れなかつた。一番いけなかつたことは、これらの情勢について生じて来た懷疑であったのである。この懷疑の結晶が「労農党」いわゆる新「労農党」であるのである。

◇

関西は今でもそうであるように社会民衆党系の右翼の勢力が強かつた。右翼の勢力はなんらの打撃を蒙らずにそのまま拡張して行くに反して、われわれの左翼の陣営は比較的に衰微を免れなかつた。関西の指導者層の焦躁は深かつた。

これではやつていけない。共産党的極度に弱化した今日、左翼陣営の主体として合法政党を再結成して、左翼陣営の保持、拡充の任に当たり、共産党的再起の日を待つべきではあるまいか。

こうした考えが湧いてきたことは一面無理もないことであった。

そこで京都から河上先生、大阪から小岩井に上京してもらい、大山氏邸に於てわれわれは鳩首協議の結果、完全な諒解に到達し、大山、上村、細迫の名によって、新「労農党」樹立の提唱をすることになり、その草案起草は大山氏の手にゆだねられた。七月のことであったと思う。」

周知のように、四・一六で共産党中央部は大打撃をうけ、市川正一、鍋山貞親、三田村四郎らも同月下旬あつて検挙され、中央部が田中正玄、佐野博らによつて再建されたのは、同年七月下旬である。この間、共産党合法機関紙『無産者新聞』の指導に誰が当つたかも明らかでない。

懐疑は殊に関西方面に於て濃かつた。

関西は今でもそうであるように社会民衆党系の右翼の勢力が強かつた。右翼の勢力はなんらの打撃を蒙らずにそのまま拡張して行くに反して、われわれの左翼の陣営は比較的に衰微を免れなかつた。関西の指導者層の焦躁は深かつた。

これではやつていけない。共産党的極度に弱化した今日、左翼陣営の主体として合法政党を再結成して、左翼陣営の保持、拡充の任に当たり、共産党的再起の日を待つべきではあるまいか。

こうした考えが湧いてきたことは一面無理もないことであった。

右の引用にある関西方面の焦躁の一端を當時、東京との連絡役を果したひとり赤松五百磨の兼光宛の訴えの書簡(七月九日付)に示しておく。

(『総同盟大阪連合会は左右両翼の対立闘争が最近頗る激化し、今や分裂の大危機に瀕しているそうです。それにつけても日本大衆党ダラ幹の奴等が、総同盟左翼を奪取すべく狂奔している由……。』)

これまで、会費、誌代などを「京都の民主運動史を語る会」宛、お送り頂いていましたが、今後は『燎原社』扱いにお願いします。そして、振替貯金局の都合で口座番号の上に新しく(6)を附記することになりました。

この間、共産党合法機関紙『無産者新聞』の指導に誰が当つたかも明らかでない。

前年四月十日、解散を強いられた労働農民党再建のための新党準備会も同年十二月二十四日その新党創立大会の最終日に再び解散を強いられ、政治的自由獲得労農同盟に転換したことも周知のことである。この同盟に対する共産党的指導は、必ずしも適切でなかつた。兼光の述べたところによると、四

年九月付で「左翼の具体的進出・新労農党的樹立」の論稿を発表している。(大山、河上、細迫著『左翼戦線の新展開』と題するパンフ所収)それは気魄がこもつていて、大胆に書かれています。「新労農党樹立の提案」は、自らの生命をかけた一大決断で、私には父の生涯における最大の決断であった。それが公表されたのは、八月八日であったが、翌九月付で「左翼の具体的進出・新労農党的樹立」の論稿を発表している。

これが従来からの政治的立場からすれば、「新労農党樹立の提案」は、自らの命をかけた一大決断で、私には父の生涯における最大の決断であった。それが公表されたのは、八月八日であったが、翌九月付で「左翼の具体的進出・新労農党的樹立」の論稿を発表している。

これは氣魄がこもつていて、大胆に書かれています。「新労農党樹立の提案」は、自らの命をかけた一大決断で、私には父の生涯における最大の決断であった。それが公表されたのは、八月八日であったが、翌九月付で「左翼の具体的進出・新労農党的樹立」の論稿を発表している。

この間、共産党合法機関紙『無産者新聞』の指導に誰が当つたかも明らかでない。

前年四月十日、解散を強いられた労働農民党再建のための新党準備会も同年十二月二十四日その新党創立大会の最終日に再び解散を強いられ、政治的自由獲得労農同盟に転換したことも周知のことである。この間、共産党合法機関紙『無産者新聞』の指導に誰が当つたかも明らかでない。

### 「連絡とお願ひ

これまで、会費、誌代などを「京都の民主運動史を語る会」宛、お送り頂いていましたが、今後は『燎原社』扱いにお願いします。そして、振替貯金局の都合で口座番号の上に新しく(6)を附記することになりました。

振替口座 京都6-15762番

この間、共産党合法機関紙『無産者新聞』の指導に誰が当つたかも明らかでない。

前年四月十日、解散を強いられた労働農民党再建のための新党準備会も同年十二月二十四日その新党創立大会の最終日に再び解散を強いられ、政治的自由獲得労農同盟に転換したことも周知のことである。この間、共産党合法機関紙『無産者新聞』の指導に誰が当つたかも明らかでない。

# 峰一夫氏の死を悼む

民医連顧問 桑原英武

全日本民主医療機関連合の峰一夫氏が、胃再手術後の腎不全で、去る昭和五十六年五月二十七日に急逝されたとしらせは、親しい友人のひとりであった私には、衝撃的なできごとがありました。全国のふるい同志の皆さんもきっとおどろかれたことでしょう。

七十一歳でした。

故人が心血をそいで「民医連新聞」に連載していた「源流」(私の民医連三十年)の執筆も、昭和四十年のこところで中断されたまま終ってしまいました。さぞ心残りであろうと惜しまれて

昭和三十七年七月琴平の第十回総会で大論議のすえ、衆望におされて全国医連の第三代事務局長に選任され、大阪から東京に常駐するようになってからの十年間が、故人のすぐれた能力とその真価が存分に發揮された時期であって、これから佳境に入ろうとするところで中止されています。

故人は、若くして社会主義思想にめざめ、天皇制下苦難の前半生を送りました。

広島高等師範学校附属小学校および中学校を卒業して、昭和二年に旧制の第三高等学校文科丙類(仏法とよんでいた)に入学しています。原爆詩人で名高い峰三吉は彼の実弟

です。

三高三年のとき、四・一六事件に連座して学校を追われ、直ちに大阪の左翼労働運動に身を投じました。大阪金

属労働者組合(旧評議会系)を経て、非公然の「全協」を大阪で組織し、さらに共産党大阪府委員会の再建に指導的役割を果たし、地下活動中を検挙され、懲役六年の刑を受けました。

その間、昭和四年末のゼネラルモータース鶴町工場千三百名の大争議には全協系のオルグとして参加しています。

『ゼネラルモーターストライキ戦記』(依岡勇三郎著昭和六年四月刊)や『再建後の左翼労働組合運動』(富呂波巖太著昭和六年九月刊)は、当時多大の危険をおかして出版されたものですが、いずれも故人が主となって著述したものといわれ、理論家としての片鱗がうかがわれます。

昨年三月に完成された『神陵史』(第三高等学校八十年史)には、彼のクラス(文三丙)の主任教授をしていた桑原武夫現京大名誉教授が、昭和四年のこととして、次のような思い出を語っています。

峰一夫は、若くして社会主義思想にめざめ、天皇制下苦難の前半生を送りました。ぼくの受持のクラスに峰一夫というのがいた。(のち)彼は関西地区的責任者だったが、その彼がひっぱられてね。彼は留置場で短歌をつくって、獄水会雑誌に送ってきたんだ。当時の部長

は林久(林久男教授)さんだったが、これを載せた。えらいことになつてね。文部省から文句を言つてくるし、森校長もあやまるほかはない。なんしろひっぱられてるんだからね」

田了一前大阪府知事がいます。いま、『全国革新懇』の代表世話人として活躍しています。

戦後、旧溝州から大阪に引揚げ、昭和二十四年に上三診療所(上三病院の前身)の初代事務長となつてから三十二年間は、民医運動ひとすじの後半生であつたといえましょう。

三

昭和二十五年大阪民主的病院診療所連合会の結成以来、初代事務長として、大阪民医連にとっては、彼は文字通り生みの親であり、育ての親でありました。

昭和三十二年に発表した論文「民主医療機関に関するメモ」いわゆる『峰メモ』は、戦前戦後の民主的な医療機関の歴史とその性格を独創的に分析解明した画期的な業績として、現在の医連綱領やその解説書のなかに、不滅のひかりを放っています。

また、「医療機関の大衆運営について」(昭和三十三年)や伊勢湾台風の救援活動の教訓をもとに定式化した「災害時の医療救援について」(昭和三十五年)などの論著は、今なお私たちの必読の指針となっています。

故人が中央で果たした業績はいちばんの受持のクラスに峰一夫というの

がいた。(のち)彼は関西地区的責任者だったが、その彼がひっぱられてね。彼は留置場で短歌をつくって、獄水会雑誌に送ってきたんだ。当時の部長

(昭和三十七年)、「民医連新聞」の創刊(昭和三十八年一月)、「民医連

医療」誌の発行(昭和四十年)など、みな民医連の団結と発展のかなめとなる事業が始まっています。

そしてこの十年のあいだに、民医連の組織は著しく拡大しました。愛知県など院所数は約一・五倍、職員数は二・八倍、新医師の参加数は昭和三十九年に医研が発足してから二・三倍となり、累計では約三百名に達している。

労災、職業病とともに公害に対する先駆的なとりくみはこの期間の特徴のひとつといえましょう。

社会保険や健保共闘会議の有力なメンバーとして、貫して健保改悪反対の先頭に立つて来ました。

中華医学会代表団の招待(第十周年記念総会)数次にわたる訪中訪朝団の派遣やベトナム医学総会との協定と共に声明などの国際交流も精力的に行動。故人はまた、広島出身ということもあって、早くから原爆医療に熱心にとりくみ、日本原水協理事として、毎年の原水禁大会で重要な役割を果した。

全国の事務局長として活動した一九六二年から七二年までの十年間は、民医連の第十四回総会から二十回総会までにあたり、彼は五十歳台の働きぶりでした。

おおらかな風貌、大づくりの広い顔貌、おだやかな低い口調の中に、ねばり強い獨得の説得力がありました。前半生の曲折はらんにみちた体験に裏うちされた抜群の政治力、組織力が花咲いた円熟期であったといえましよう。(峰氏の思い出を語る資料より)

## 治維法の復活を許すな！

東京石黒周三

北牧孝三様、過日は東京都議選のご

応援、つづいて「治安維持法ギセイ者  
国家賠償要求同盟」（略称『治維法同  
盟』）の全国大会への御参加など、目  
ざましいご活躍に対し改めて敬意を表  
します。

それに『燎原』第一八号で、東京で  
のご体験をもとに「治維法同盟」運動  
の大観を御紹介いただき感銘していま  
す。

次に吹田市の桑原さ  
んからお電話があり、  
京、阪、神においても  
同盟支部建設の準備会  
を持つとのお知らせが  
あり、事務局から吉田  
節俊氏を派遣すること  
になっています。

その席に北牧大兄が  
御参加、席上、東京、  
長野、千葉などの情態  
もお話し頂き近い将来、  
京阪地方の支部結成の  
礎石となるよう、御  
高賜りますよう切にお願い申上げ  
ます。

## 員 友 会 誌

だ よ り

のこれ以上の進出と、核戦場化に反対  
する動きとは、決して無縁でないと思  
います。

わが国でも、旧内務官僚「とくに特  
高官僚、戦争犯（岸、笛川、児玉  
ら）等の改憲勢力は、ドイツのナチズ  
ムに貫徹するもので、この勢力の拡大  
強化を断じて許してはなりません。

「再び戦争を許さない」という、私  
たちが身体を張つての証言こそ、旧治  
安維持法復活勢力、民憲法改悪勢力  
に対し、鉄錐を与えることができる最  
大のものと思います。

今回の大阪での準備会議成功のため

## 百ヶ日を迎えて納骨

左京井垣綾子

前略御免下さい。

先日は『燎原』をお送り下さいまし  
て、どうもありがとうございました。

私も九月十九日で百ヶ日を迎え、真  
如堂に納骨いたしました。今ころは八  
年前に亡くなつた息子と仲良く話し合  
っていることでしょう。

秋らしくなつてきました。御身体を  
大切に！みなさんによろしく。

## 隨想 隨保守と革新

○ この国に、無産政党の国会議員が、  
一人も居なかつた頃、私達の町では主  
権在民の衆主国家になつた。権力の上  
にあぐらをかいて居た、貴族、華族と  
称する人間が消滅したのは、世の中を  
明るくさせた。汝、臣民でなくなつた  
のは喜ばしかつた。

○ 十五年戦争が敗戦で終り、お蔭で主  
権在民の衆主国家になつた。権力の上  
にあぐらをかいて居た、貴族、華族と  
称する人間が消滅したのは、世の中を  
明るくさせた。汝、臣民でなくなつた  
のは喜ばしかつた。

○ 現在、革新派の国会議員百数十数名  
が、保守派政権と対峙して居る。経済  
成長の影響もあるが、子供達の高校卒  
業は一般的になり、若い労働者の結婚式  
も、大きく変つて華やかになつた。中  
には、海外への新婚旅行もあるようだ。

○ ○ ○ 円入金は二、〇〇〇円の誤り、  
藤谷俊雄氏からの二、〇〇〇円入金  
は木下稔氏の誤り、また、村中嘉男は、  
嘉明氏の誤植でした。お詫び申上げます。

○ ○ ○ 前号の舟橋求己氏からの一、  
(訂正) (以下次号)

本誌八月、九月号の発行がおくれて申  
訳ありません。あと年内に、十月、十一  
月、十二月号と、新年号を出す予定です。

会員、誌友から御寄稿をお願いします。  
併せて会費、誌代等未納の方は年内  
にお払込みをおねがいします。

## 事務局より 領収証に代えて

（左京区一乗寺東浦町50の14  
井関論方）

（治安維持法ギセイ者国家賠償要求  
同盟本部）

二、〇〇〇円）、広告料、カンパンなど、  
左記の各氏から納入がありました。有  
難うございます。（順不同、敬称略）  
なお、金額、氏名などに誤りがあ  
れば、お手数ながらお知らせください。

記

二、〇〇〇円 杉原四郎（西宮）  
五、〇〇〇円 安田守男（宇治）  
五、〇〇〇円 京都中央法律事務所  
二、〇〇〇円 酒井一（枚方）  
五、〇〇〇円 西村幸雄（左京）  
二、〇〇〇円 本田弥一（福知山）  
二、〇〇〇円 湯浅晃（左京）  
五、〇〇〇円 平野万吉（下京）  
二、〇〇〇円 武井一雄（）  
三、〇〇〇円 長田秀子（埼玉）  
二、〇〇〇円 小林修（神戸）  
二、〇〇〇円 江崎晃（左京）  
二、〇〇〇円 佐々木（）

○ 普選で無産政党の国会議員が、七、  
八人出た時、持たない側の人々は、前  
途に大きな希望を持ったが、世の中は  
少しも良い方向に進まなかつた。

○ 若い労働者の結婚式は、なじみの大  
衆食堂の座敷を借りて、親友四、五人  
の出席でおこなわれるのがほとんどで  
あつた。新婚旅行など勿論出来なかつ  
て、保守の進出を喰いとめ、米帝

（S）

革新派議員の増加と、民衆の生活の  
向上とが、正比例して居るようである。  
（S）

# 燎原（既刊）総目次

## オ一號～オ七號

- 第一号** (4 p) 八〇年三・一五刊  
「京都民主運動史を語る会」の訴え、  
会則、創立総会報告  
京都・大阪の労働学校の思い出（住  
谷悦治）、会員自己紹介
- 第二号** (4 p) 八〇年四・一五刊  
みんなの力で、革新の輪を更に拡げ  
よ（井垣）昭和五五年事業計画  
『燎原』にきまるまで  
京都『三・一五事件』齊藤英三氏を  
囲んで。ヒドイ拷問を語る（田中豊  
藏）、会員紹介
- 第三号** (4 p) 八〇年五・一五刊  
第三回『語る会』を開くに当つて  
(井垣) 漢詩を通じてみた河上肇  
教授の人間像（一海知義）、会員紹  
介、会員だより、事務局より
- 第四号** (8 p) 八〇年六・一五刊  
ダブル選挙、事務局から。広告募集  
昭和五・六・七年当時の京都の労働  
運動（飯田助左衛門）、『京津電車  
転覆事件顛末記』（井垣次光）  
五年とこどろく（山田幸次）  
関東大震災の思い出（北牧孝三）  
市議選立候補の思い出（田中豊藏）  
会員紹介、おねがい、会員だより
- 第五号** (8 p) 八〇年七・一五刊  
今こそ正しい歴史の証言を（山田）
- 第六号** (8 p) 八〇年八・一五刊  
八月十五日に憶う一生かそう歴史の  
証言を（稻田達夫）、昭和初期の京  
都労働組合運動の思い出（小川広之  
介）、大正末期京都での思い出（和  
田三次郎）、昭和八年頃（村中嘉明）  
近頃の若い者は（稻田素臣）、滝川  
事件のころ（西村清三）、獄中の河  
田實治さん（細川三酉）、会員だよ  
り、署中見舞広告)
- 第七号** (8 p) 八〇年九・一五刊  
九月十八日を迎えて（木村京太郎）  
昭和初期・京都の労働農民運動の思  
い出（田村敬男）、権力の手足（斎  
藤雷太郎）、鈴木善幸氏と雑誌『漁  
村』（山田幸次）、同志社を辞めさ  
れた話（住谷悦治）、会員誌友だ  
より、会友紹介
- 第八号** (12 p) 八〇年一〇・一五刊  
八年を転換のスタートに（山田）  
新春を迎えての所感・決意、大正末  
昭和初期の労働組合運動の思い出（上  
河田賢治）、四國紀行（品角一郎）  
ソ連の障害者対策（岡谷元治）  
12・5事件の思い出（井上喜代松）  
昭和初期・戦争前夜の日本（岩井忠  
熊）、父細迫兼光の思い出（細迫朝  
新、年隨想、各氏）

- 第一二号** (12 p) 八一年三・一五刊  
夫）マルクスとローテの墓（住谷  
悦治）、河上先生の書簡発見（品角  
一郎）、草野悟一氏を偲んで（井垣  
次光）、自己犠牲の権化色川善助（  
野口務）、新刊紹介（季刊『郷土と  
美術』）「資料」評議会の人々（谷口  
善太郎）、正しい史実を遺そう（平  
井重太郎）、会員・誌友だより、新  
春特別号について、事務局だより
- 第九号** (10 p) 八〇年一一・一五刊  
一月三日に誓う（木村）、仏教と  
科学的社会主义（福岡精道）、ソヴ  
エートの老人たち（岡谷元治）、ヨ  
ーロッパへ旅立つ前（住谷悦治）  
新らたなる民主主義攻撃の手法に対  
処しよう（井垣）、レフトについて  
知りたい（平井重太郎）、会員だより
- 第一〇号** (10 p) 八〇年一二・一五刊  
十二月八日を迎えて思うこと（山田）  
戦前の『土曜日』発行をめぐって（  
斎藤雷太郎）、色川善助さんの思い  
出（西村清三）、昭和初期・戦争前  
夜の日本（続）、岩井忠態、ソヴェト  
の労働力（岡谷元治）、亀井重一さ  
んをおくる（井上喜代松）、ロンド  
ンとベルリンで（住谷）、会員だより
- 第一三号** (12 p) 八一年三・一五刊  
くらしと平和の闘いを結び、いたる  
ところに統一の芽を（山田幸次）、  
蟻川虎三先生逝去、第二回総会に當  
つて、敗戦直後の京都の労働運動に  
ついて（上）（井家上専）、京都の四・  
六事件について（杉本文雄）、  
『資料』捨てる神、救いの神（住谷悦治）、  
『賞』思い出すまさに（斎藤英三）、  
『土曜日』以後（2）（斎藤雷太郎、山宣  
川さんを偲ぶ（福岡精道氏外）  
大正末・昭和初期の農民組合運動に  
ついて（堀芳次郎）、敗戦前後の京  
都の労働運動について（下）（井家上専）  
『賞』（2）（斎藤英三）、『土曜日』以  
後（3）（斎藤雷太郎）、会員・誌友だよ  
り。（以下8面につづく）